令和8年度 募集要項

京都市芸術文化特別奨励事業

奨励金 100万円を交付します

Kyoto City Special Bounty Program for Art and Culture

京都市は未来に向かって挑戦する『アーティスト』を応援します

Kyoto City supports artists who take on challenges for the future.

申請者説明会：

7月11日(金) 午後7時－午後8時

7月24日(木) 午後7時－午後8時

※希望者のみ。
前日までに二次元コードよりお申し込みください。

申込締切：

2025年8月29日(金)

午後5時【締切厳守】

応募資格

芸術文化に関わる活動を行い、次の全ての条件に該当する個人（1名）又はグループ（2名以上）

①住所地、活動拠点、又は予定する発表場所のいずれかが京都市内であること

②京都の芸術文化の振興や発信に貢献する可能性のある活動（創作、発表、企画、研究など）を行っていること

（備考）

○グループの場合、メンバー全員が上の条件に該当することを必要とします。

○申請は1個人又は1グループにつき、1件に限ります。（個人とグループ、両方での申請は不可）。

○年齢制限はありませんが、主に20代～30代半ばの若い年齢層からの応募を期待します。

○芸術のジャンルは問いません。複数のジャンルにまたがるものや、既成のジャンルの枠を超えた新しい芸術なども対象とします。

○京都市芸術新人賞の受賞者など、本市において一定の評価を受けている方は対象となりません。

奨励の内容

新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化の振興を図ることを目的に、将来、特に有望と認められる若い芸術家を推奨する制度です。

（「人材育成」を目的としており、事業への助成を目的とするものではありません。）

将来に向けて積極的な芸術活動を行うための奨励金として、申請者の中から選考のうえ、1個人又は1グループにつき、300万円（課税対象所得となります）を交付します。

申請の方法（WEBフォーム及びメールで申請）

(1)令和8年度奨励申請書：
WEBフォーム上に入力ください。

(2)「受入承諾書」の写し及びその日本語訳：
WEBフォーム上に添付ください。

(3) 自己アピール資料：
メールまたはWEBフォームで提出してください

300万円

奨励者（奨励を受ける者）の決定

審査委員会（1次審査：書類審査・2次審査：プレゼンテーション審査）において、奨励者を決定します。1次審査、2次審査の結果は全ての申請者に通知します。

審査にあたっては「今ある力」よりも「今後の飛躍の可能性」に注目します。

１次審査では、近年取り組んでいる活動資料から専門分野における独創性や先駆性、実施の意義や実現可能性を評価します。

２次審査では、プレゼンテーションを行っていただき、審査委員との質疑応答を通して、資料だけではわからない申請者の「今後の飛躍の可能性」を評価します。

申請から採択までの流れ（WEBフォーム及びメールで申請）

① 申請受付6月30日(月)-8月29日(金)

② 1次選考・結果通知10月-11月頃

③ 2次選考12月-1月頃

④ 奨励者決定-2月頃

申請受付期間

令和7年6月30日(月) 午前10時

令和7年8月29日(金) 午後5時

舞踊・パフォーミングアート、陶芸、現在美術、コンテンポラリー・サーカス、現代音楽、声楽・カウンターテナー、パフォーマンスアート、演劇、古典芸能の研究、小説、彫刻、地歌演奏・柳川三味線、キュレーション、民俗芸能・能楽、映画、声楽・カウンターテナー、絵画、クラシック・チェロ、映像表現、劇作・舞台演出、コンテンポラリーダンス・バレエ、演劇、ピアノ、舞台演出、邦楽、洋画、声楽、舞台照明デザイン、現代舞踊、演劇、クラシック・チェロ、ジャズ・トランペット、クラシック・ヴァイオリン、映像・美術造形、インスタレーション、メディアアート、現代舞踊、浄瑠璃、声楽、漫才、デザイン、タイポグラフィー、手芸、刺繍、ファッション、ヘアメイク、ペットトリミング、ネイルアート、センティングデザイン、フレグランスデザイン、香道、レザークラフト、服飾、染織、テキスタイル、ガラス工芸、ジュエリー、折り紙、洋裁、和裁、編み物、陶芸、金継ぎ、漆工芸、家具、石工、鍛冶、古美術、古書、木工芸、造園、園芸。京野菜、イルミネーション、グラフィックデザイン、ビジュアルデザイン、タイポグラフィ、観光、キャラクターデザイン、プロダクトデザイン、建築、リノベーション、古民家再生、まちづくり、ランドスケープデザイン、路上観察、アーカイブ、イラスト、タトゥー、写真、彫刻、ごみ拾い、絵画、版画、グラフィティ、アール・ブリュット、プロジェクト、コミュニティデザイン、アウトリーチ、ワークショップ、幼児教育、アップサイクル、リサイクル、福祉、文化研究、社会学、文化人類学、哲学、博物学、考古学、批評、編集、保存修復、アートマネジメント、キュレーション、漫画、アニメ、ゲーム、フィギュア、CGデザイン、ボードゲーム、映画、ドキュメンタリー、メディアアート、バイオアート、コンピューターグラフィックス、コーディング、音響制作、照明、華道、フラワーアレンジメント、紙漉き、茶道、書道、日本舞踊、浄瑠璃、文楽、芸妓、コンテンポラリーダンス、フラダンス、バレエ、カポエイラ、どじょう掬い、パルクール、ブラジリアンダンス、サンバ、フラメンコ、ポールダンス、タップダンス、チアダンス、社交ダンス、舞踏、アイドル、人形劇、演劇、舞台美術、ミュージカル、サーカス、エアリアル、大道芸、手品、紙芝居、腹話術、琵琶法師、語り部、ストーリーテリング、お笑い、漫才、能、狂言、神楽、歌舞伎、パティシエ、日本食、料理、食文化、創作料理、和菓子、洋菓子、精進料理、日本酒、古楽、DJ、VJ、ヒップホップ、邦楽、盆踊り、民謡、演歌、浪曲、謡曲、落語、小説、エッセイ、戯曲、詩、[illegible]指揮、器楽、[illegible]レコーディング、楽器製作、ロック、レゲエ音楽、[illegible]ー音楽、DTM、Vtuber、etc.

これまでの京都市芸術文化特別奨励者

令和 5年度　黒川岳(現代美術)

令和 4年度　ゴーダ企画(舞踊・パフォーミングアート)

令和 2年度　西條茜(陶芸、現代美術)

tuQmo(コンテンポラリー・サーカス)

平成31年度　空間現代(現代音楽)

村松稔之(声楽・カウンターテナー)

平成30年度　久保ガエタン(現代美術)

hyslom(現代美術、パフォーマンスアート)

平成29年度　木ノ下 裕一(演劇、古典芸能の研究)

高尾 長良(小説)

平成28年度　谷中 佑輔(現代美術・彫刻)

林 美音子(地歌演奏・柳川三味線)

平成27年度　徳山 拓一(現代美術を中心としたキュレーション)

久門 剛史(現代美術)

平成26年度　中川 日出鷹(現代音楽・ファゴット)

森田 玲・林 宗一郎(民俗芸能・能楽)

平成25年度　小林 達夫(映画)

JCMR KYOTO(現代音楽の研究・企画)

平成24年度　中嶋 俊晴(声楽・カウンターテナー)

Hyon Gyon(絵画)

平成23年度　加藤 文枝(クラシック・チェロ)

宮永 亮(映像表現)

平成22年度　あごう さとし(劇作・舞台演出)

曽根 知(コンテンポラリーダンス・バレエ)

平成21年度　筒井 加寿子(演劇)

内藤 裕子(ピアノ)

平成20年度　三浦 基(舞台演出)

横山 佳世子(邦楽)

平成19年度　英 裕(洋画)

平成18年度　髙谷 公子(声楽)

宮永 愛子(現代美術)

平成17年度　名和 晃平(現代美術)

吉本 有輝子(舞台照明デザイン)

平成16年度　砂連尾 理+寺田 みさこ(現代舞踊)

平成15年度　内田 淳子(演劇)

上森 祥平(クラシック・チェロ)

mitch(ジャズ・トランペット)

平成14年度　井上 隆平(クラシック・ヴァイオリン)

ソバット・シアター(映像・美術造形)

髙橋 匡太(現代美術・インスタレーション)

平成13年度　奥村 泰彦(舞台美術)

河原崎 貴光(メディアアート)

坂本 公成(現代舞踊)

文楽若手義太夫節の会(浄瑠璃)

松岡 万希(声楽)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により奨励者の募集を中止。

令和７年度奨励者
竹本 碩太夫(文楽)

生まれも育ちも北海道札幌市、ホームグラウンドは国立文楽劇場(大阪市)である私の背中を押して下さいました。2度目の応募での選出でした。将来の飛躍の為、自身の研鑽に繋げる公演の企画はもちろん、我たちが普段から使用している舞台道具や舞台衣装の数々を、歴史ある京都で培われ伝承された伝統技法の力をお借りし、修繕、製作して参りたいと思っております。芸はもちろん、私たちが関係する伝統技術においても未来に伝承したいと考えるものです。新たなことに挑戦したい、さらなる飛躍を望みたい時、とても勇気がいり、気力体力のいることだと思います。1人の力では成し遂げられないことがほとんどでしょう。そんな時に力強く応援して下さるこの類稀な制度に、ぜひ応募されてはいかがでしょうか。

令和６年度奨励者
中川 裕貴(チェロ奏者)

これまでの活動経験から感じる京都の魅力は、様々な文化や芸術が密接し、時に混ざり合いながら多様に存在しているところにあります。私は独学でチェロを習得しましたが、それは様々な文化、芸術の混淆(こんこう)と洗礼が繰り返される「京都」という「環境」が無ければ成しえなかったものであると感じています。そして環境に加え、「(文化)政策」という意味でも、私は多くのサポートを京都市から頂いていますが、この奨励者制度はその最たるものとして、今、自身の背中を大きく押してくれています。芸術の意味や意義が変わりゆく現代ではありますが、この制度を利用し、京都の歴史や文化に寄り添い、広く多様な活動を続けていくアーティストの応募を期待しています。

問合せ先

〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
TEL: 075-222-3119　FAX: 075-213-3181
E-mail: bunka-syourei@city.kyoto.lg.jp

発行: 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課
京都市印刷物　第070866号　令和7年7月
制作協力:一般社団法人HAPS 芸術家×仕事コーディネート事業

デザイン:西頭慶恭
協力:黒川岳

京都市 CITY OF KYOTO

京都市♥地域コミュニティ活性化